

連載復活!

# ヘルスケア歯科医院 ちょっと拝見します



樽味 寿 (宝塚市開業 たるみ歯科クリニック)

新・リレー連載 1

たるみ歯科クリニックの“これまで”と“これから”

**私**は2003年3月に大学教官を辞め、38歳という年齢だったこともあり勤務医を経験せず、同年5月に宝塚市で開業しました。当院が入る医療ビルは、宝塚の中心部から約3km東のJR中山寺駅近隣にあります。今でこそスタバができるなど人の往来がありますが、テナント契約したときは、広大な造成地が区画整理されたばかりで、道路は舗装されておらず、近隣施設や街灯もなく、夜は危ないくらい真っ暗だったことを今でも覚えています。

**開**業当初、35坪のテナントにチェア3台、新卒歯科衛生士2名、歯科医師は私と週に1回来てくれる小児歯科医（現・副院長）、受付は医療職未経験の妻という5名で、不安だらけのなか必死で頑張りました。少しでも知名度を上げようと、選手の健康診断や治療に携わっていた阪神タイガース球団からの色紙を、待合室の目立つところに飾っていました。



阪神タイガース球団からの開業祝色紙（中央に故・星野監督、そして周りにはレギュラー選手のサインが入っている）



医療ビルの外観



診療室の窓から見える、現在の風景

**当**時、お困りの方をすべて受け入れていたため医院が狭くなり、開業4年目の2006年8月、たまたま空いていた隣のテナントを借りて増築（70坪）しました。しかし、院内の仕組みが成熟しないまま規模を倍にしたため、いろいろなことで悩み、苦労しました。このあたりのことは『ホームデンティスト プロフェッショナル2』（インターアクション社刊）に寄稿しています。

**開**業当初から予防をベースにした診療をしてきましたが、ふと閃いて参加した札幌ワンデーセミナー（2011年）で心を動かされ、『時間軸を意識し、変化を診るために資料を揃えるヘルスケア歯科診療』に、明確に移行したいと考えました。できるだけ素早く転換したかったので、5名の常勤歯科衛生士をその年の歯科衛生士育成プログラム基礎コース（東京）に派遣するとともに、認証診療所になれるようステップアップガイドを参考に医院を変えていきました。医院が急速に変化するなか、歯科衛生士との間で様々な摩擦や衝突が生まれましたが、お互い感情的にならないようミーティングを重ね、皆で乗り越えていきました。大阪ワンデーセミナー（2016年）では当院歯科衛生士が当時の苦労話とともに、ヘルスケア歯科診療に移行した感想をこのように提示しています。

### ヘルスケア歯科診療を始めて衛生士が感じたこと

- たるみ歯科の方向性が統一できた
- 衛生士業務がやりやすくなった
- 衛生士として自信がついた
- 他の医院のスタッフとも繋がりができた



本気になれば、楽しい！

大阪ワンデーセミナー（2016年）での当院歯科衛生士の発表スライド

2012年に日本ヘルスケア歯科学会の認証診療所となった当院では、現在、常勤8名、パート5名、産休2名の歯科衛生士が在職し、そのうち同学会の認定歯科衛生士は7名（産休中の2名を含む）、症例提出準備中（検定合格済み）のものが3名います。歯科衛生士からの提案で、新人には基礎コースと同じ歯周組織検査と口腔内写真撮影の院内検定を行い、先輩からの合格が得られれば患者さんに携われるようにしています。日常臨床においては、撮影した口腔内写真を空いている歯科衛生士や歯科助手がパソコンに取り込み、撮影後すぐにチェアサイドで説明できるよう医院全体取り組んでいます。

人の成長には優秀な方との交流が不可欠です。長年、当院歯科衛生士に基礎コースのインストラクターを目指して欲しいと伝え続けてきたところ、山下チーフが私の意向に賛同してくれ、一昨年から東京と神戸のコースをお手伝いしてくれるようになりました。山下本人もレベルの高い歯科衛生士の皆さんと触れ合えることで刺激を受け、とても楽しいと言っており、彼女のさらなる成長が期待されます。



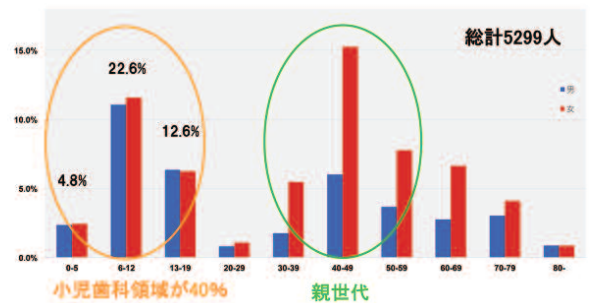
歯周組織検査の練習風景

のように当院では、歯科衛生士の育成において学会を思う存分活用させていただいておりますが、最近では学会ネットワークにお世話になることが続いています。今年

1月、医院から100m先に介護付老人施設が完成し、入居者への定期的な訪問診療の依頼がありました。要介護の方を診たことがなかったので、愛媛の高橋 啓さん（コアメンバー）に相談したところ、たかはし歯科の訪問診療風景を動画で送っていただきました。これを参考にしながら週に1回程度、歯科衛生士とともに施設を訪問し、口腔ケアや義歯の新製・調整を行っています。また今年3月には、阪神タイガースの球団トレーナーから、歯科治療に強い恐怖感を抱く選手の治療を依頼されたので、日本歯科麻酔学会認定医の高木景子さん（オピニオンメンバー）に相談し、笑気吸入鎮静下での治療をたかぎ歯科にて行うことができました。学会の皆さんは本当に親切で、とても面倒見がいいです。私も自分にできることがあれば、全力でサポートしたいと考えています。

ヘルスケア歯科診療を、『病因論に基づいた治療と定期的健康管理を実践し、その結果を常に検証し改善を続ける歯科診療のかたち』とし、そしてそれを山登りに例えるなら、当院はようやく4合目にたどり着いたところでしょうか。ひとりひとりの患者さんにしっかり向き合い、変化を診るために資料を揃え、そして長く関わっていくこと（線の歯科臨床）はできるようになりましたが、藤木省三副代表が示されるような自院の臨床経過を面で捉える解析や検索はまだ難しく、症例提示をする際は記憶に頼っているのが現状です。

2017年メンテナンス患者の年代別・男女別割合



2017年メンテナンス受診者の年代別・男女別割合

昨年の当院メンテナンス受診者を調べてみると、子どもを連れて来院される方が多いため、小児が全体の40%で、その母親世代も多いことが確認されました。一方、仕事をしている世代の男性受診率は女性の半分以下でした。

スタッフの責任感と使命感に支えられ、日々、幅広い年齢層の方々との定期的健康管理を担っておりますが、その方々の臨床経過や結果を常に検索・検証できる体制を構築するのが当院のこれからの課題です。遙か彼方の藤木省三さんという大きな山に少しでも近づけるよう、チーム一丸となって、これからも改善を続けていく所存です。

